

# はじめに

恵まれた自然条件と都市近郊という立地条件のもと、野菜を始め米、麦、果樹、花植木、畜産など多彩な農業が展開され、720万人の県民はもとより4,300万人の首都圏の皆様にも安全・安心で新鮮な農産物を安定的に供給している本県農業が、平成26年2月14日から15日の記録的な大雪により、過去に類を見ない深刻な被害を受けました。

この大雪は秩父で98cm、熊谷で62cmなど、これまでの積雪の記録を大幅に超える大雪であったことから、県内の施設園芸ハウス等が倒壊するなどの甚大な被害が生じました。しかし、倒壊したハウスが多数を占めた地域でも、倒壊しなかったハウスも見られました。

そこで、今後の施設再建や既存施設の補強、降雪時の対応等の技術対策に活用するため、大雪により全壊・部分倒壊したハウスと倒壊しなかったハウスにおいて、その構造や補強の状況、降雪時の現地での対応等について実態調査（354か所）を行いました。

未曾有の災害から多くのことを学び、被災した農業者と産地の復旧に全力で取り組むためにも普及組織を挙げて緊急に調査を実施しました。

今回、この調査結果をもとに、倒壊をしなかったハウスのポイントや低コストで再建するための施設の構造、補強対策等についてまとめました。

この資料が今後の施設再建や既存施設の補強、栽培管理等の参考として被災農家の経営再建に活用いただければ幸いです。

平成26年5月

埼玉県農林部農業支援課  
課長 金子 和 欣